

あなたは親が離婚(別居)すると知ったとき、どう思いましたか？

(学年は事件時のもの)

- 「お母さんの家の出方が悪かったから、捨てられたのかと思った」
 - * 未就学から小学生の兄弟の面会開始後の母への言葉 (母が夜中に突然追い出されたため、事情説明ができていなかった)
- 「どちらかと言えばママと住みたい。でも喧嘩をしたら仲直りをする方法を探さなくちゃいけないのに、どうしてママが出て行かなくちゃいけないの？」
 - * 小学生女子の離婚時の母への言葉 (親権をどちらが持つかで争いを続けてもマイナスになると思い、母が家を出て離婚)
- 「パパとママのどっちについていったらいいか分からない」
 - * 小学生女子の連れ去り4ヶ月前の医師との面談メモ (精神疾患の母から、家出についてくるように長期間強要され、言うことを聞かないという理由で小児精神科を受診)
「私はパパが大好きだけど、ママがパパのこと嫌いだから・・・」
 - * 小学生女子の連れ去り1週間前の父への言葉 (精神疾患の母から家出についてくるように長期間強要されていた)
 - 「パパと会うのは構わないが、ママはパパを恨んでいるから、会うことになったらママに気を遣う必要がある」、「前の学校の友達には顔を合わせたくないから、自宅へは夜中にお忍びで行きたい」「パパとママの喧嘩だから、私には関係ない」
 - * 小学生女子の連れ去り1年後の調査官報告書
- 「また会おうね、また会おうね、また会おうね」
 - * 未就学の男子の父への言葉 (親権者指定審判時の試行面接での言葉)

(続き)

- 「突然引き離され、その後に離婚すると言われたので、**どうして僕に何も聞かずに離婚したんだと思った**」、「たとえ離婚したとしても、どちらも親だから、自由に会わせて欲しいと思った。もし自由に会わせてもらえないのなら、お父さんと一緒に暮らしたいとも思った」
* **小学生男子の親権変更後の父への言葉（一旦引き離された後に、父の元に脱出）**
- 「弟の相談で心理カウンセラーと話すうち、幼い姪たちを自分に重ねて、色々なことを思い出しました。私自身は母方の大勢の親類やいとこたちに囲まれて、にぎやかに暮らしてきたので寂しいとも思わず、金銭面の苦労も知らず、ある程度成長してからは父親とも会っていたので、片親家庭であることを母が負い目に感じるほどには気にしていないつもりでした。でも、抑えていた感情があったようです。**この年齢になって、今更何十年も前の幼い自分と向き合うことになろうとは思いませんでした。『前だけを見て生きてきたから子供時代のことは覚えていない』とずっと思ってきましたが、『辛い感情』を『忘れる』ことで身を守っていたのでしょうか。正に今、姪たちが『忘れないとやっていけない』時間を過ごしているのではないかと心配で胸が張り裂けそうになります。そんな私自身に関してははっきり言えるのは、**離婚に至った両親を責める気持ちは全くないということ。でも、そのとき若い夫婦の周囲にいた大人たちを恨む気持ちが、私の中に間違いなくあるということ。どうして誰か、頭に血の上った夫婦を諭すか無理やりにでも、子供との縁を途切れさせぬように仕向けてくれなかったのか。そしてここ最近で、なんでこうも身を引き裂かれるほどに姪たちの身と将来を案じずにはおれないのかがようやく腑に落ちたところ。弟想いとか、そういうことではなく、今の私が、「そのとき若い夫婦の周囲にいた大人」の立場だから、傍観者ではいけないのです**」
* **親が離婚した女性（実弟が連れ去り・引き離しを受け、少女時のことを思い出す）****